

第27回御前崎市民公開講座にあたり

市立御前崎総合病院 病院長 大橋 弘幸

— 私のリウマチとの遭遇 —

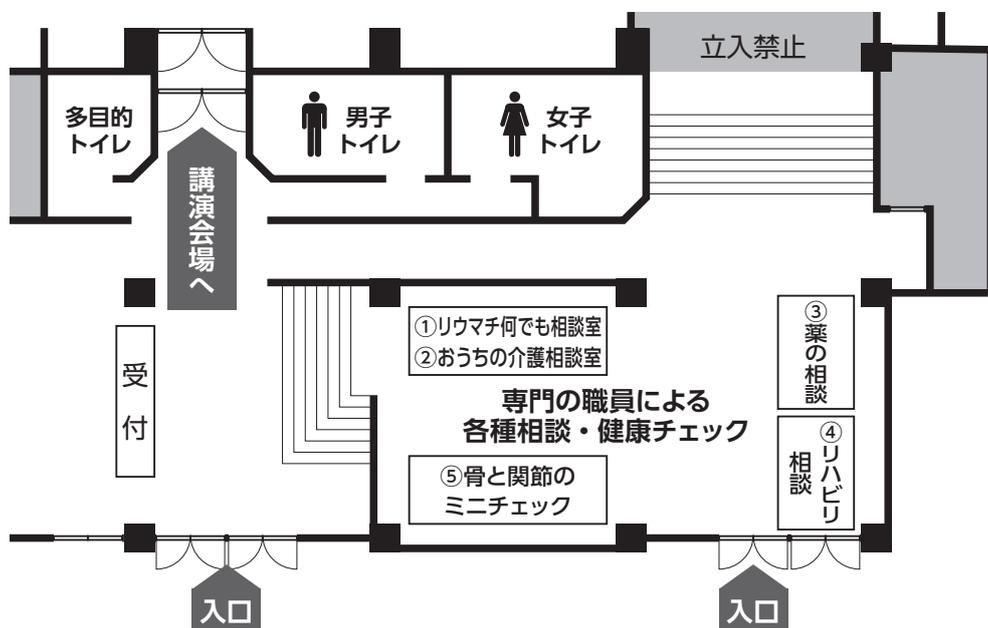
私は、浜松医科大学を卒業後に内科の研修を始めました。最初の5年間位は専門とする「膠原病」から離れ、広く病気や患者さんを診療し、何でもできる医者になりたいと考えていました。大学病院で初めて担当した患者さんは、30年にわたりリウマチに苦しめられ、四肢の関節は腫れて変形し、動かそうとすると痛みでふるえ、頸椎（くび）にもリウマチが入り込んでおり、常にカラー（首を守る装具）をしていました。抗リウマチ剤（リウマチを特異的に抑える薬）、消炎鎮痛剤2種類、ビタミン剤、得体の知れない民間療法薬など多数の薬を服用し、朝も昼も夜も痛い痛いようになっていました。また、この患者さんは痛みのため心は晴れず、いつも医療に不満があり、愚痴をこぼし不機嫌でした。この患者さんに出会った事で、痛みが長期に続く事が人の性格や態度、気分をどんなに痛めつけ、ゆがめるかを初めて知りました。痛みはやはり「悪」です。

— 新しい治療の幕開け —

カナダに留学した後、欧米では既に良く使用されていたメトトレキサートの使用を始めました。この薬剤は今までの抗リウマチ剤とは異なり、確かな手応えがありました。その後、次々と出現した抗リウマチ剤の中で特に印象深い薬はインフリキシマブです。この薬を全身の痛みのため歩行も困難であったリウマチ患者さんに使用したところ、「全く痛くなくなった。これならもうすぐ自転車に乗れるよ。」と患者さんが報告してくれました。その後、私たちはこのような強力な効果のある生物学的製剤が8剤も使えるようになりました。まさに治療法の革命が起こったという感じです。また、最近では経口剤（飲み薬）で生物学的製剤と同じようにリウマチを改善する薬が使用可能になってきました。リウマチの治療はさらに進化しています。私たちは、現在、大きな希望をもって治療に当たっています。

今回の市民公開講座は、浜松医科大学 整形外科（専門 関節リウマチ外科）講師 鈴木基裕先生をお招きし、最近の関節リウマチ手術の治療について講演していただきます。リウマチに対しては、内科的治療と整形外科的治療が車の両輪のように必要です。鈴木先生にはいつもリウマチ患者さんの手術等で助けてもらっています。リウマチは今もってなかなか手強い相手ですが、負けずに一緒に立ち向かいましょう。（関節リウマチをリウマチと略しています）

会場案内図



- ①リウマチなんでも相談室
リウマチの事でお悩みの方、ご相談ください。
- ②おうちの介護相談室
自宅での介護について、介護方法やこれからの事など、ご相談ください。
- ③薬の相談
いま飲んでいる薬を確認しませんか？
- ④リハビリ相談
身体能力を測りましょう！相談も受け付けます。
- ⑤骨と関節のミニチェック
1) 骨のチェックをしてみませんか？
2) 超音波で関節を見てみよう！

各種相談・健康チェックの内容については一部変更になる場合がございますのでご了承ください。